

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	その他専門店〔携帯電話〕（従業員）	・従来型の携帯電話販売は最近落ち込み気味であるが、第3世代携帯電話の販売量は増加してきている。第3世代のサービスエリアが既存方式並みになれば、販売量が倍増すると見込んでいる。年末のボーナス商戦に向けて第3世代携帯電話の大々的なPRを行う予定である。
	やや良くなる	百貨店（売場主任）	・10月に入ると秋物の動きが出てくる。大きな友の会の売出しや中高年以上をターゲットとしたフェアも今年は新たに開催し、客の来店を促す。
		コンビニ（店長）	・10月の国産ワインの新種や11月のボジョレーヌーボー、それに伴うチーズやおつまみの販売など、秋の行楽に向け期待できるので、やや良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・期待の持てる新型車の投入があり、販売量の増加が見込める。
		その他専門店〔携帯電話〕（営業担当）	・年末のボーナス期に向けて新機種の販売も計画されているため、期待している。
		タクシー運転手	・年末にかけて例年通り忘年会等でのタクシー需要が見込まれる。
		通信会社（営業担当）	・デジタル関連機器の新商品発売や、消費者へのデジタル波サービスの浸透などから、今後は需要が伸びてやや良くなる。
		ゴルフ場（副支配人）	・前年に比べ、秋口の引き合いが入っている。取り込みは前年より若干上回る見込みである。
		設計事務所（所長）	・設備投資意欲が少し出てきているので、これが動き出せば、2～3か月先はやや良くなる。
住宅販売会社（経営者）	・長期金利の上昇に伴い、駆け込み需要が見込まれる。		
変わらない	商店街（代表者）	・サービス業、小売店は地域の企業が良くなると売上が伸びない。良くなる見通しはない。	
	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・大企業、中堅が良くなっているといわれているが、弱小企業までは回ってきていないので、まだしばらくは変わらない。地元の大きな工場が年末に移転予定であり、じわじわと影響が出ている。移転後どうなるのか、次が入るまでどのくらい期間が空くのかと不安である。	
	百貨店（店長）	・8、9月と2か月連続で前年比90%台と悪く、上向きような状況にはない。	
	スーパー（統括）	・来客数は安定して微増傾向にあるが、来店回数の増加によるものである。実質所得が下がり続けていることから、消費マインドの冷え込みも懸念され、買上単価は今後も更に落ち込むと見込んでいる。厳しい残暑により、秋物は販売期間が短く、どれだけ売れるか不透明である。	
	コンビニ（経営者）	・中華まん、おでんなどが動いてきたため、これ以上は悪くならない。	
	衣料品専門店（統括）	・10月の秋祭りに向けて、例年であれば企業、個人とも気分が高まり人の動きが活発になるころだが、今年はそのような雰囲気ではない。参加を迷っている企業や、不参加を決定した企業も出ている。	
	乗用車販売店（販売担当）	・少しずつ良くなってはいるが、極端に良くなることはない。宣伝をすれば若干販売量が増加するという繰り返しで、変わらない。	
	乗用車販売店（営業担当）	・各自動車メーカーでイベント発表会等が企画され、今までよりも客の動きは増えているが、契約までには少し時間を要する。	
	高級レストラン（店長）	・短期的な日々の変化は多少あるものの、家庭の収支がはっきりと回復しない限りは長期的な改善は期待できない。	
	一般レストラン（業務担当）	・来客数の減少に歯止めがかかり、10～11月の宴会予約は前年並みになっている。12月の忘年会予約は10月中旬以降に動き出すので現時点では分からない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・今後2～3か月後の予約状況を見ると、既存客の予約はあるが、新規客の利用割合は非常に少ない。営業努力不足もあるだろうが、ハード面の影響も考えられる。修繕に力を入れたいが、予算が取れない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会プランも今までより1千円マイナスくらいで作らないと売り込めない。3か月先も低調となる見込みである。	

	都市型ホテル（スタッフ）	・景気は依然として停滞気味である。大企業の景況が良いといわれるが、地方都市はそのような状況にない。中小企業の活性化を更に図らないと景気は変わらない。	
	旅行代理店（経営者）	・ベースアップや賞与等の増加は見込めず、社会保険負担増による手取り収入の減少などで消費が落ち込み、今後3か月で地方の景気が上向くとは考えられず、低迷したままで変わらない。	
	旅行代理店（営業担当）	・動いているのが個人旅行と団体旅行の年配客のみである現状からは、今後具体的に良くなるというような明かりはみえない。	
	観光名所（職員）	・本格的な紅葉シーズンに入り、客の入込は例年並みと予想されるが、自分の別荘を利用して食事をする人が多く、レストラン、ホテルの売上は例年を下回る見込みである。	
	ゴルフ場（支配人）	・絶好のゴルフシーズンを迎えているが、予約数は前年並みであり、好調ではない。スポーツの秋とはいえ、地域や企業等のコンペは減少している。	
	その他サービス〔自動車整備業〕（事務長）	・今年は前年の平均台数を上回る月が一度もなく、今後も上回る兆しはみられない。地元では大規模百貨店が来年閉店する予定で、地域に良い企業は見当たらない。	
	設計事務所（所長）	・一時的な計画物件は入っているものの、来年へ先送りの物件が多く、3か月先は現在と変わらない。	
	住宅販売会社（経営者）	・9月の基準地価がまた下がり、冬季オリンピック時の2分の1となっている。下げ止まりの判断が難しく、客は検討しても購入の決断には至らないという状況は、今後も変わらない。	
	住宅販売会社（経営者）	・相変わらず銀行の融資が厳しく、客がローンを組むのに非常に苦労している。審査基準が厳しく、ここ最近も住宅ローンが組めない客が何人か出ている。銀行関係の改善をしないと、景気は良くならない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・8月に開店した郊外大型店の影響が少しずつ出てくる。また、10月に大手衣料専門店を中心とした郊外店舗群が開店予定であり、影響を受ける。	
	一般小売店〔金物〕（経営者）	・建築、土木材料の需要の関係を総合すると、工量はなかなか増えず、今後は更に原油価格の高騰の影響が出て、やや悪くなる。	
	スーパー（経営者）	・来客数は前年を上回っているが、客単価の低迷が続いており、競合店との競争が更に激化しているため、やや悪くなる。	
	スーパー（経営者）	・値下げしても客数が伸びていない。既存店の売上が回復しない。	
	コンビニ（店長）	・当分の間、近隣ショッピングセンターオープンのマイナス影響を受ける。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・原油高による仕切り単価の上昇を売価に転嫁するのが難しいので、厳しい。	
	一般レストラン（経営者）	・近隣の店舗が開店したにもかかわらず、客数があまり伸びていないので、今後も良くはならない。	
	観光型ホテル（スタッフ） 美容室（経営者）	・観光シーズンとなるが、前年に比べ、宿泊、団体昼食の予約が減少しているため、やや悪くなる。 ・祭りにかかる出費は食品を始めとしてとても大きく、その後の人の流れが変わるほどなので、これから何か月かは売上が良くなることはない。	
悪くなる	衣料品専門店（販売担当）	・4～5キロ離れた所に10月早々大型ショッピングセンターが開店する。年末年始はこの開店景気で客の流れが変わる。10キロ程度先にも大型店が開店予定であり、11月末の選挙で地元銀行の不良債権問題が顕在化することなど、全てが悪い方向で重なり、悪くなる。	
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	化学工業（総務担当）	・一部の商品に年数が経過したための買換え需要が出てきている。
	変わらない	一般機械器具製造業（経営者）	・建設機械関連部品は下げ止まってきており、引き続き自動車関連部品がわずかに増加することから、やや良くなる。
		食料品製造業（営業統括）	・当初予想された国産新種ワインの動きはそれほど活発でなく、輸入ワインにおされて各メーカーとも苦戦を強いられている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・今のところ受注量の動きが活発になる雰囲気はなく、伸びが期待できる兆候はない。	

	一般機械器具製造業 (生産管理担当)	・取引先の生産動向説明会や内示情報から判断すると、年内は確実に現在の忙しい状況が続く。	
	電気機械器具製造業 (経営者)	・部品の購入先が工場を中国に出しており、ある程度まとまった量でないと売らないといわれ、少量しか使わない部品をやむを得ず大量購入し、在庫を抱えて困っている。先行きは変わらないとしたが、不安要素もある。	
	建設業(経営者)	・受注は若干増加するが、資材高のため採算は悪化する。	
	広告代理店(営業担当)	・クライアントの販売量に大きな変化はなく、特別に広告予算を投入して拡販する動きはない。販促効果が大きく出ない状況に対するあきらめのようなものが見受けられる。求人広告は微増を続けており、社員、アルバイトの定着が悪く、良い人材は採用難であることがうかがえる。	
	新聞販売店[広告] (総務担当)	・市内の百貨店が来月リニューアルオープンするため、活性化すると期待している。一方、9月に入ってからの人の動きが鈍くなっていることなどから、業種により低迷する懸念もある。石油類の高騰がどのように消費者の負担増に表れてくるかも心配である。	
	その他サービス業[情報サービス](経営者)	・原油や素材の値上がり製品価格にどう跳ね返ってくるのか不透明である。まだ価格が安定せず、今後の投資の様子見する客が出ている。	
やや悪くなる	輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・3か月前の時点では9月の受注量は前年を11%強上回ると見込んでいたが、実際は4%強と、大きな離れが生じている。10、11月の状況もほぼ横ばいの見通しとなっている。6月をピークに様変わりしている。	
	金融業(経営企画担当)	・製造業では電気、通信、情報などIT関連企業及び自動車関連企業を中心に、しばらく受注増が続いていたが、夏場以降やや一服感がみられる。ただし、受注が減少しているわけではないので、それほどの懸念材料ではない。	
	その他サービス業[放送](営業担当)	・商業、サービス業からのイベント受注減少により、10~12月の売上高は前年同期比で5%程度落ち込む見込みである。	
悪くなる	建設業(総務担当)	・公共事業主体の当社は、構造不況業種になる建設業のため、企業存続を視野にいろいろな模索をせざるを得ない厳しい状況である。	
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社(経営者)	・正月前にかけては例年忙しくなるので、良くなる。
	やや良くなる	人材派遣会社(営業担当)	・このところ登録に来るスタッフのクオリティがやや落ちてきている。それなりに有能な人材は既に就業しており、あぶれた求職者が登録に来るといった状況である。現在の仕事に満足せず、更に条件の良い仕事を求めて登録するケースもある。
		学校[短期大学](就職担当)	・事務系、工場労働など派遣受注は堅調に推移しており、売上も前年をクリアしているので景況は順調に推移していく。
			・精密関連、自動車部品など、製造業の求人が前年より20%程度増加している。地元銀行の新卒事務職求人は、3年ほど前より関連子会社から銀行への派遣方式をとっており、今回県内で数十名規模の追加求人が出ている。
変わらない	人材派遣会社(経営者)	・電子関連、電機関連の一部、自動車関連で生産は伸びているものの、人が定着しないので、求人の動きは出てきているが、総じて変わらない。	
	職業安定所(職員)	・企業側は依然として厳しい見方を崩していない。業務量の増減が多少あり、安定感はない。	
	職業安定所(職員)	・求人は増加しているが、その中心は、派遣、請負であり、就業地が管外、県外の求人が多く、直接就職には結び付いていない。事業所閉鎖や人員整理の話もなくなり、明るい見通しは立てられない。	
	民間職業紹介機関(経営者)	・製造業では業務量は確保できているものの、原油の高騰で原材料のコストが上がり、利益を圧迫し始めている。そのため、求人に不透明感が始り、不安材料となっている。	
	学校[大学](総務担当)	・景気が回復する状況がみえないため、就職内定率の上昇は期待できない。	
やや悪くなる	職業安定所(職員)	・求人は増加しているが、請負、派遣などの不安定求人が2割を占め、正社員を希望する求職者とのミスマッチは増加傾向にある。一時的なオリンピック景気の反動で、採用が手控えられている。	
悪くなる	-	-	